



自然農法の情熱伝える

三上新一さんが中里小5年に

中里小の5年生が12月7日(金)、中里町自然農法研究会の三上新一氏を訪れ、自然農法の苦労や、三上さんの米作りをくわしく学びました。

一行は、はじめに三上さん宅で、自然農法で米作りをするに至った三上さんの説明を聞きました。平成5年の大冷害で、周りの農家が軒並み収量を激減させる中、自然農法の米がそれほど量を落とさず、それが転機となつたことや、家族や自身の病気から自然農法に至つた経緯、自然農法の技術や作業、現在研究中のことまで、自然農法に関するあらゆることを、三上さんが情熱的に語り、子どもたちも熱心に聞いていました。

また、児童からの質問にも三上さんは回答。「自然方法をあきらめかけた

ことは？」との問いには「津軽のじよっぱり精神でがんばった」と答えるなど、60問以上に及ぶ質問に、一つ一つていねいに答えていました。

その後子どもたちは、三上さんのライスセンターを見学。さまざまな機械が並ぶセンター内を見て、子どもたちは驚きの声を上げていました。

三上さんは「大変なこともあるが、自然農法は儲かる方法。農家はだんだん少なくなっているが、皆さんには農家になることを目指してほしい」と子どもたちに語りかけていました。

福祉に役立ててと寄付金贈呈

北西ファームなど4団体から

11月26日(月)、津軽開発協同組合、(有)北西ファーム、芦野ねぶた保存会、(株)竹内組従業員親善会の4団体が町長室を訪れ、町に寄付金を贈呈しました。

この日は、それぞれの団体から4人が代表して役場を訪問。町民祭への出店や、いろいろなイベントでの収益金の一部を、町の福祉に役立ててほしいと町長に直接寄付金を手渡しました。

町長は「大変ありがたいこと。皆さんのお志に沿うよう大切にに使わせていただきたい」と感謝の言葉を述べていました。



今年は何とテレビ寄贈

小泊中保健委員会が町社協に



小泊中保健委員会から町社会福祉協議会に対し、40型液晶テレビが寄贈されることになり、12月5日(水)高齢者生活福祉センターで同協議会の白岩会長に贈呈されました。

この日やってきたのは、保健委員

会委員長の越野俊くん(同中3年)と、担当の古川先生。同校では、町がもつたいない条例を制定していることや、高齢者に楽しんでもらおうと、今年も古紙や金属類などリサイクル品を、家庭にも協力を得て収集。売却収入でテレビを購入しました。同校は昨年車いすを寄贈しており、2年続けての贈呈となります。

越野くんは「いろんな人に手伝ってもらってリサイクル品を集めた。寄贈できうれしい。来年度はソファアの寄贈を目指したい」と話し、一方、寄贈を受けた白岩会長も「(町社会協議会が行っている)夕涼み会でも中学生にボランティアで参加してもらった。いただいた品はありがたく使わせてもらいます」と喜んでいました。

更正に尽力した2氏に法務大臣表彰

坂本チツ子さん
中村盛江さん

11月26日(月)、保護司を務める坂本チツ子さん(富野地区)と中村盛江さん(派立上地区)に、このたび法務大臣から犯罪者更生に対する功労で表彰状が贈られ、町長に報告しました。坂本さんは23年、中村さんは16年と、長きにわたって罪を犯した人の更正を手助けし、保護司としての貢献が、今回認められた格好です。

坂本さんは「受賞できたのは、特に主人の協力があってこそ。表彰状の名前を主人の名に書き換えたいぐらい。これからも地域の防犯に力を尽くしたい」と話し、中村さんも「私一人の力でなく、保護司みんなの協力で受賞できた。再び罪を繰り返さないよう、更なる活動を展開したい」と受賞の感想を述べました。

